

都市再生整備計画(第3回変更)

やまとがわ に き
大和川二期地区

にいがた いといがわ し
新潟県 糸魚川市

平成26年3月

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	新潟県	市町村名	糸魚川市	地区名	大和川二期地区	面積	167 ha
-------	-----	------	------	-----	---------	----	--------

計画期間	平成 21 年度 ~ 平成 25 年度	交付期間	平成 21 年度 ~ 平成 25 年度
------	---------------------	------	---------------------

目標

子供からお年寄りまで安心して暮らせる、安全なまちづくり

小目標1:安全に通学、通院ができる生活の道づくり

小目標2:安心して生活するための防災機能の充実

目標設定の根拠

まちづくりの経緯及び現況

大和川地区全体

・糸魚川市総合計画において、市民生活重視の立場に立った市民参画による計画づくりや実施をすることで、市民と行政が一体となりまちづくりを進めるとされている。その基本目標の一つに「美しく快適な住みよいまちづくり」が位置づけられている。

・大和川地域は、東西に細長く日本海に面し、背後には丘陵地が迫る狭隘な地形をなし、そこへ南北を分断する形で一般国道8号、J R北陸本線が通過し、さらに一般国道8号糸魚川東バイパスや北陸新幹線が新たに建設されつつある。このような状況から大和川地域の住民から良好な居住環境や快適に暮らせる生活環境の整備が要望され続けている。

・一般国道8号は朝の通勤時に慢性的な交通渋滞になっており、平成4年からバイパス建設に着手している。また合わせて県道西中・糸魚川線の道路整備が平成10年度から進められ、大和川地区と中心市街地を結ぶ幹線道路が整備されつつある。

大和川地区東部

・梶屋敷駅前周辺においては、JR北陸本線梶屋敷駅・国道8号(ハズ路線)などの交通基盤施設が整備されており、梶屋敷商店街、郵便局、医院、保育園、交番等の生活基盤施設が整い、1つの街区を形成している。

・心の安らぎと豊かさを求め自然に触れようとする機運が高まり、市民主導型の運動として、「花いっぱい運動」が活発化しており、平成16年4月には都市緑化功労者新潟県知事表彰を受賞、平成20年8月にはその功績が認められ国土交通省北陸地方整備局長から感謝状が贈られたところである。

・地域の伝統を受け継ぐ「梶屋敷伝統芸能保存会」が、立壁神社秋季大祭の一部である獅子舞と神輿の巡業を梶屋敷商店街通りを利用して行っている。さらに、加賀藩参勤交代の宿場本陣であったため、4年に一度盛大な「奴道中」を披露している。加えて、7月には地域の小学生などが神輿をかつぎ通りを練り歩くなど、地域コミュニティ活動が活発な地域である。

・梶屋敷商店街の空洞化や少子高齢化が進むなか、良好な住環境を提供し地域活性化の一翼を担っていた公営住宅梶屋敷団地29戸が、老朽化により16戸を空家にせざるを得ない状況となっており、人口の減少が進行していることから、若者世帯も入居できるよう公営住宅と若者向け住宅の建設が強く望まれていたが、まちづくり交付金事業の同地区一期(H16~H20)において整備が完了し、同事業で「花いっぱい運動」などの活発な地域コミュニティ活動の場としての公園も整備し、公園の花壇に地域住民が自主的に花を植えて世話をしていることなど、活動の輪が広がってきている。

・中心街の道路側溝が老朽化したいへん危険であることや南側地区の冬期間の歩行環境が悪いことから、住民が安全に歩きやすい道路整備が求められている。

大和川地区中央部

・大和川南土地区画整理事業及び県・市営住宅田伏団地建替事業がそれぞれ平成15年度に完了し優良宅地・住宅の供給をしているが、地区内の道路整備が十分ではないため、住民が安全に歩きにくい状況である。

・大和川南土地区画整理事業は組合により10.3haの区域で整備が完了しており、将来的には180戸の住宅建築が可能で、組合解散前に住み良いまちづくりのための建築協定が制定され、良好な住環境への気運が高まっている地域である。

・昔からの住宅密集地を東西に貫く道路は、副員の狭い旧国道しかなく、朝の通勤と通学が重なり子どもたちの安全確保が十分とは言えない状況である。したがってより安全な生活道路が必要となっている。

・当地区の中心にある大和川小学校は避難所を兼ねているが、地域全体の大規模災害対策の拠点として機能拡充が求められている。

大和川地区西部

・当市の保健医療の中核をなす糸魚川総合病院、スポーツや公民館活動のための多目的交流センター、公共下水道の浄化センターがあり、また近くには高校もあることから、子供からお年寄りまでの歩行環境を改善する道路整備が強く望まれている。

課題

子供からお年寄りまで安心して暮らせるためには、安全な道づくり及び防災機能の充実が課題である。

・通学や通院など地区内の歩行者が歩きやすい、安全な居住環境をつくるための生活の道づくり。

・地域住民の安心、安全を確保するため、地域の防災力を高める大和川小学校の機能を拡充した避難所の整備。

将来ビジョン(中長期)

緑豊かで、快適な住居地域

・糸魚川市総合計画では地域の将来像として、農業との調和を保ちながら、土地の有効利用と都市機能の充実を図るとともに、生活環境の向上を目指し、地域の将来像を『緑豊かで、快適な住居地域』と位置づけられている。

目標を定量化する指標

指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値		目標値	
					基準年度		目標年度
1. 通学路及び公共施設への歩きやすい道路整備率	%	大和川小学校への通学路及び病院や公共施設へ住民が歩いてアクセスする生活道路のうち、歩行者が安全に通行できる動線が確保されている割合	歩道設置、道路側溝の改修、道路の拡幅、消雪パイプの整備により、歩行者が安全に歩きやすい道づくりを目指す。	63	平成20年度	100	平成25年度
2. 災害時要援護者の収容人数	人	災害時などに大和川小学校が幼児・老人・障害者などの要援護者を収容できる人数	要援護者用の避難所として改修することで災害時に安心した避難生活が確保できる。	0	平成20年度	60	平成25年度

都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>整備方針1(安全な道づくり)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道路管理者などの関係機関との協議により道路計画の作成後、地元関係者、地権者への説明会において事業の趣旨説明と協力要請。 ・用地買収、物件補償を経た後、歩道設置工事や道路新設工事の早期実施に取り組み、学校や病院へのアクセスの安全性向上を図る。 ・老朽化して危険な道路側溝の改修、狭隘で歩きにくい道路の拡幅、冬期間の往来を確保する消雪パイプの布設により、歩行者に安全な道づくりを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・(市)正山線道路事業(基幹事業) ・(市)田伏竹ヶ花線道路事業(基幹事業) ・(市)田伏梶屋敷線道路事業(基幹事業) ・(市)梶屋敷区民会館線道路事業(基幹事業) ・(市)横道線道路事業(基幹事業) ・(市)大和川海浜線道路事業(基幹事業) ・(一)国道8号系魚川東バイパス建設事業(関連事業・国) ・(県)西中系魚川線道路改良事業(関連事業・県)
<p>整備方針2(防災機能の充実)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域住民の安心、安全の確保のため、大和川小学校を大規模災害対策の拠点として避難所の機能を強化する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・大和川小学校避難所整備(提案事業) ・大和川小学校備蓄倉庫新設(基幹事業)
<p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域コミュニティ活動 大和川地区における伝統行事の継承や、活発な地域コミュニティ活動を深めることにより快適な生活環境を創出し、魅力ある地域づくりに地域一体となって取り組む。 	